

平成31年度静岡市協働パイロット事業 企画提案書

団体名：(一社) 静岡県インラインスケート協会

1 事業のタイトル

どこでもできるアーバンスポーツ！

マナーを知って安全に楽しもう！

2 事業の概要 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください。)

市民にとって身近である既存公園や広場、公共施設、学校などを使って、若者を中心に関心が高まっている「アーバンスポーツ」を楽しむ機会を創出し、市民がスポーツを楽しむ機会と場所作りを行う。

また、しっかりと場を設けて教える場を作ることで、道具を揃えれば手探りでも始められるアーバンスポーツにも、公共の中で楽しむにはちゃんと守るべきマナーがあることや、安全に楽しむために必要な道具、技術があることも知ってもらう。

従来から普及活動に取り組んでいる当団体だけでは、使用できる場所や機会に限りがあり、普段から活動場所については課題を抱えていた。静岡市と協働で取り組むことで、これまでの活動に広げられると同時に、公共財産である公園などの一層の利活用や、新しい側面での地域コミュニティの創出という点で市民とともにメリットを作り出せると考える。

3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

当協会の役割

インラインスケート及び、それ以外のアーバンスポーツ（実際に行うジャンルについては、使用できる環境による）の体験会や定期的な教室等の実施。

2011年より学校体育館や、東静岡アート&スポーツ/ヒロバ他、様々な場所で体験会や教室、デモンストラーションイベント実施の実績あり。

静岡市にお願いしたいこと

使用場所の紹介、案内、許可

広報の協力（広報誌、町内会、学校等）

職員の中で、楽しんでくれる方の募集

4 事業計画・実施スケジュール

6月 実施場所の選定（年3回程度の実施。規模により回数に変更あり。）

7-8月 1回目の開催（夏休みイベントの一環として）

9-10月 2回目の開催（市内の地域イベント等と一緒にするなど（用宗港のなぎさ市など）

11-12月 3回目の開催（同上）

1-3月 4回目の開催（同上）

上記以外、場所の選定の中で、定期的に同じ場所でやることでより多くの参加者、効果が見込める可能性があれば、その場所で定期的に行うことも可能。場所を同じくすることで、効率が上がり実施回数が増やせる可能性がある。

例1：駿府城公園内一部を使って、プレミアムフライデーの日に体験会を行う「フライデーナイトスケート」の実施

例2：実施されなくなった冬季のアイススケートリンクに代わって、青葉公園の一部を使って行う「インラインスケートリンク」

など

5 実施体制及び主要スタッフの経歴

実施体制

(一社) 静岡県インラインスケート協会 静岡市本部スタッフ

小林 賢太郎

2003年より静岡市内を中心にインラインスケートの普及活動を行う。

都市計画、コミュニティプランニングを専門とし社会におけるアーバンスポーツとの共存について研究、実践を行う。全国のスケートパーク数カ所についてアドバイザーなどをつとめる他、インラインスケートの世界レベルの選手の引率、アテンドなども行なっている。

井川 健太郎

静岡市民葵区在住。

2011年よりインラインスケートを始め、体操の知識を生かし現在は東静岡アート&スポーツ/ヒロバのスクールにて金曜スクール講師を務める

他、インラインスクール講師3名、プロのゲスト講師、協会関係者

6 特にアピールしたいこと (専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など)

2020年にオリンピック種目となったスケートボードやスポーツクライミング、パリオリンピックで新種目となったブレイクダンス。そしてインラインスケートは長年アジアゲームス公式種目であり、BMXは以前よりオリンピック種目となっている。

世界的に以前からすでにメジャースポーツの仲間入りをしており、右から上がりで従来の競技スポーツ以上に成長し、優秀な日本人選手が数多くいるにもかかわらず、このような新しい世界にこれまでの日本は目を向けてこなかった。しかし、スケートボードのオリンピック種目入りを皮切りに、全国各地で争うようにスケートパークが整備されている。

しかし、こういったハード先行の環境整備が引き起こす問題は、すでに海外では明らかになっているにも関わらず、多くの自治体では対策となる取り組みを行っていない。

当協会では、2000年初頭にはすでにアメリカで顕在化し、解決へ社会全体が動いていたこれらの問題を念頭に、いずれ来る日本国内でのブームまでに自ら社会的価値を生み出し、日本型の社会の中に受け入れられる愛好家コミュニティの構築をすることで、誤解や悪影響なくアーバンスポーツが楽しめる環境づくりを行ってきた。

2011年に始まった「インラインスケートリンク」は、県内数カ所で地元有志による自発的かつ定期的な開催がされており、他県や海外からも問い合わせや視察など反響を得ている。

その一方で、静岡市内で活動をしていく中で、行政を中心に多くの場所や機会でも拒否され続けてきたという苦い経験もある。

静岡市内においては、2017年にオープンした東静岡アート&スポーツ/ヒロバとそこでの活動により、市民団体としての実績も積み上げたものの、「どこでも、誰でも」楽しめる姿とは未だかけ離れており、同時に一括した民間企業への委託という体制から、「責任ある愛好家」自身によって、マナーを守り、場を守るコミュニティが地域にできているかということ、まだまだ長い道のりである。

本事業を通じ、アーバンスポーツを表面だけではなく、出自や歴史、文化を知っていただき、また、私たち自身もより良い社会の中でのあり方を学ぶことで、静岡市内にアーバンスポーツを楽しめる環境が一層整い、そのことで市民が日常的に楽しめるスポーツの選択肢が増えることに寄与できるものと考えている。